昭和57年　第803号
7月18日

市報 にいがた

市の人口

	前月比
人口	456,864（＋696）
男	223,843（＋363）
女	233,021（＋333）
世帯数	146,624（＋388）

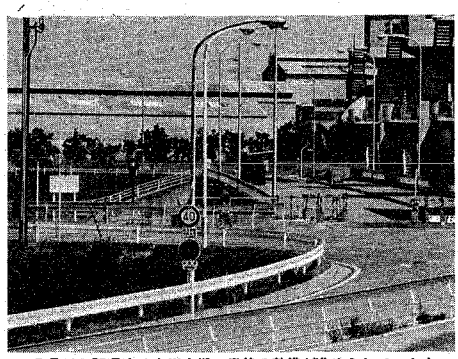
57年5月末日現在

発行日　毎週日曜日
発行所　新潟市役所
新潟市西堀通6番町
866
電話 代表(28)1000
編集人　二宮省三
（担当企画部広報課）
印刷所　㈱第一印刷所

7月26日開通へ

本川大橋

東西新潟を結ぶ橋



7月26日開通する本川大橋、最後の整備が進められています

交通の利便性飛躍的に増大

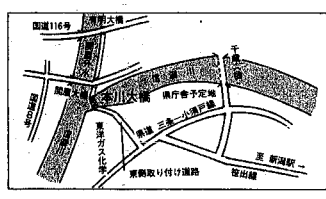
東西新潟を結ぶ橋として早期開通が待たれていた本川（ほんせん）大橋は東側の取り付け道路が完成し、七月二十六日正午からの開通式終了後開通することになりました。この橋の開通で、関屋分水以西から駅南方面への距離は一気に縮まり、対岸を見ながらぐるりと遠回りしていたドライバーや自転車利用者の利便性が高まることが期待されます。

二車線の通行が可能

本川大橋は、市道平島―出来島線に架かる橋で、関屋団九郎から網川原にかけて東新潟と西新潟を結びます。長さは九十九㍍あり、幅は十二㍍、そのうち車道部分は七㍍で二車線通行が可能です（大型車は通行禁止）。橋の歩行者道、下流側は一・五㍍の歩道があります。

市がこれまでに投入したお金は橋と取り付け道路を含めて約七億二千万円にのぼります。

関屋分水がつくられた際、信濃川水門を管理する橋が必要となりました。この付近には、昭和大橋から帝石橋までの四・九㌔の間に橋がなく、地元の人たちは対岸を間近に見ながら、ぐるりと遠回りしなければならない不便をかこっていました。そのため水門の建設と併設して四十七年に本川大橋の建設に着手し、五十年に完成しました。



現在、県道三条・小須戸線に直結する長さ六百二十二㍍の東側取り付け道路のアスファルト舗装やマーキング、標識・信号機の設置を行っているほか、県土木事務所の手で、県道交差点の歩道のかさ上げ工事を行い、七月二十六日開通に向かって最後の整備を行っています。

千歳大橋下部工の契約締結も
39議案を同意・可決
6月議会終わる

六月二十一日から開かれていた六月定例市議会は、七月六日、約一億三千七百万円を追加する一般会計補正予算、千歳大橋下部工（河川部）工事に伴う契約の締結など、すべての四件が議員発案で、提出決議されました。

千歳大橋下部工（河川部）工事など契約締結十五件―など全部で三十六議案です。

また、今議会で、「農畜産物輸入自由化枠拡大阻止に関する意見書の提出」、「昭和五十七年産米政府買入価格ならびに農業・食糧政策の確立に関する意見書の提出」、「第九次道路整備五カ年計画の策定と主要地方道等整備促進に関する決議」、「公正かつ民主的入札の確保に関する決議」に同意された人事案件三件を除く三十六議案を原案どおり可決、承認し、閉会しました。

可決した主な議案は、一般会計補正予算など補正予算三件、六条例の一部改正八件、天野横土居および新川向かいの区域を白根市に編入する市の境界変更一件、内野中学校・大江山中学校校舎増改築工事、養護学校校舎新設工事、鳥屋野潟南西部の屋外総合体育施設造成工事、千歳大橋下部工事など契約締結十五件―など全部で三十六議案です。

当世にいがた模様

十一月十五日待望の「上越新幹線」が開通します。人口四十五万人を超え、日本海側最大の都市にまで成長した〝新潟市〟が、今大きく変わろうとしています。

そこで、新幹線開通を前に「新潟の自然」「まつり」「人情」「食べ物」―などを取り上げ、今の新潟をもう一度見つめ直し、改めて〝新潟の持つ良さ〟を皆んなで考えてみたいと思います。題して「当世にいがた模様」。

初めは「新潟の自然」を四回にわたって紹介します。

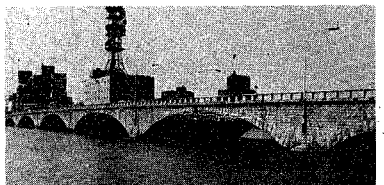
日本海に沈む佐渡の夕日、信濃川に代表される川、多くの湖沼、砂丘、海岸の松林、変化に富んだ四季―とほかの都会では見られない、あるいは失われた自然が、新潟にはまだまだたくさん残されています。第一回は「新潟の川、湖沼」。

「新潟は信濃川だけでなく日本海、阿賀野川、鳥屋野潟と、〝水〟とは切っても切れないものがある。もっと〝水〟を大事にしなければ」と語るのは鶴木秀司さん（青年会議所理事長。「水の新潟　八千八川　ハーサハラショ　ハラショノ　ロンロン（新潟小唄）と歌われた〝水の都〟新潟。新潟は今も昔も〝水〟とは切っても切れない。

新潟の川、湖沼
―新潟の自然―①

新潟は港町である。明治元年五港の一つとして開かれ、市は港の繁栄によって生きてきた。

市の中心部には、日本一の長さを誇る信濃川が流れ、北部にも、わが国有数の大河、阿賀野川が日本海に流れ込む。人工の川、関屋分水も信濃川を大事にしていかなければ」と話している。



新潟市の象徴「信濃川」と「万代橋」

自然が残る
佐潟、じゅんさい池

市の西端に位置する佐潟。砂丘湖でオニバス、アシなどが繁殖し、うなぎやコイ、フナなどもたくさん捕れる。冬にはシベリアから白鳥もやってくる。河渡には、じゅんさい池がある。スイレン科の「じゅんさい」が紫色の花をつけ、周囲には赤松が群生し、野鳥がさえずる。鳥屋野潟は、周辺の開発が進み、環境の悪化が心配されている。

しかし、桜並木があり、白鳥、ヒシクイなどが飛来し、市民の憩いの場となっている。

じゅんさいの池の近くに住む田辺重喜智さん（松園町自治会長）は「昔はじゅんさいを採って食べたりした。水が枯れて水位が低下してきた。昔のように水が十分あれば」と残念がる。

かつて水の都の象徴といわれた堀が姿を消した。歴谷小波が「川々の橋柳々かな」と歌った堀も、昭和三十九年の国体を前に全部埋め立てられ、今はわずかに西堀の柳が〝柳都〟の面影を残すのみとなった。

「水のある所は人情が豊か。せめて西堀ぐらいは残しておきたかった」（郷土史家、笹川勇吉さん）「西堀、東堀がきれいな堀のまま残っていたらねえ…」（日本旅行、佐藤久良さん）という声も聞かれる。

市民病院、臨時の看護婦(含准看)募集

募集人員　若干名
勤務時間　8時間勤務または5時間勤務
連絡先　市民病院看護部（☎41―5151、内線301、233）へ
※勤務条件など詳しくは連絡先へ

献血車「ゆうあい号」

月日	時間	会場
7・19	午前9時～午後3時半	東北電電工業㈱新潟支社（横山町）
7・20	午前9時～正午	新潟県林業会館（川端町）
7・20	午後1時～午後4時	ユアーズウオロク女池店（女池6）
7・21	午前9時～午後3時半	サン化学㈱東港築会所（太郎代）
7・22	午前10時～午後4時	ライオンドー石山店舗（東中島）
7・23	〃	とやのホームセンター前（堀之内南）
7・24	午前9時半～午後3時	新潟駅前（花園1）

※正午から午後1時まで受け付け休み

～水道局～

責任技術者講習会と資格認定試験

〔責任技術者講習会〕
日時　9月14日午前10時～午後4時
会場　中小企業会館
内容　法令、給水工事の設計・施行法
受講料　4,000円

〔資格認定試験〕
日時　9月19日午前10時～午後2時半
会場　県立新潟商業高校
受験科目　学科（法令、給水工事の設計・施行法）
受験料　3,000円

申し込み・問い合わせ　いずれも7月31日までに水道局工務第一課（☎66―9311内線313、314）へ

7月のボランティアビューロー案内

ボランティア活動に関心のある方はぜひおいで下さい。

問い合わせ　市ボランティアビューロー（八千代1☎43―4370）へ

◆**ボランティア相談**
日時　日曜・祝日を除く毎日午前9時～午後4時（木・土曜日は午後9時まで）

◆**ジュニア・サロン**（中・高校生対象）
日時　毎土曜日午後1時半～3時半

◆**木曜サロン**（昼間参加できない方）
日時　毎木曜日午後6時半～8時半

◆**手づくりコーナー**（手芸の好きな方）
日時　毎火・木曜日午前10時～午後2時と第2・4火曜日午後6時～8時半

新潟国際友好会館　休館のお知らせ

「児童画展」の準備および後片付けのため次のとおり休館します。

休館日　7月21日～24日、9月1・2日

おもな目次

◆健康づくりは自分の手で―とやの婦人協議会―（二面）
◆「夏休み」子供特集（三面）
◆「三川自然の森」で利用者研修会開催（四面）
◆地域の話題―松浜―（四面）